子どもとスポーツ
～地域格差をなくすために～

大東文化大学　森ゼミＡチーム
〇斉藤加奈子　内田航介　木村咲穂
宮本淳美　吉村一起　渡邊友也

1. はじめに

現在の日本において、若者のスポーツ離れが問題となっている。総務省の調査によると、昨年 10 月、過去 1 年間にスポーツをしたかどうかを、約 20 万人を対象に調べた。15 歳以上でスポーツをした人の割合は 61.6%で 1986 年の調査に比べ 14.7 ポイントも下がった。年齢別では 20～30 代の落ち込みが目立ち、60 歳以上の割合は逆に高まっていた。

また、子どもの体力低下も問題となっていて、保護者をはじめとする国民の意識が、外遊びやスポーツの重要性を学力の状況と比べ軽視する傾向が進んだことにあると考えられる。また、生活の利便化や生活様式の変化は、日常生活における身体を動かす機会の減少を招いている。

さらに、子どもが運動不足になっている直接的な原因として次の 3 つをあげることができる。（日本レクリエーション協会）

（１）学校外の学習活動や室内遊び時間の増加による、外遊びやスポーツ活動時間の減少
（２）空き地や生活道路といった子ども達の手軽な遊び場の減少
（３）少子化や、学校外の学習活動などによる仲間の減少

今日の社会においては、屋外で遊び、スポーツに親しむ機会を意識して確保していく必要があり、特に大人が子どもを取り巻く環境を十分に理解し、積極的に体を動かす機会を作っていく必要がある。

そこで私たちは、若者や子どものスポーツ離れが問題となっている現在の日本において、どうすれば若者や子どもの意識が変り、スポーツを盛んにすることができるのかと考えた。子どものスポーツ離れについて、笹川スポーツ財団の調査によれば、10 代が過去 1 年間によく行った運動・スポーツは、毎年サッカーとバスケットボールが多かった。そして、サッカーとバスケットボールを学校内で頻繁に実施している学校期が中学校期ということもあり、私たちは中学生のサッカーとバスケットボールの部活動に着目をした。地域格差を調べて、スポーツが低迷している地域に対して、問題点をみつけてその解決策を提示し、地域格差のない日本全体のスポーツ復興に向けて提言することにした。

2. 研究方法

全国中学校男子サッカー大会(1970 年～2010 年)と全国中学校男子バスケットボール大会(1974 年～2013 年)の過去 40 年間のベスト 8 を集計した。そして、地域別格差を調べるために、両スポーツとも、各年で 1 位 4 点、2 位 3 点、3 位(2 チーム)2 点、5 位(４チーム)１点とポイントをつけ、都道府県ごとで集計し、地域の平均値を出した。また、全国中学校男子サッカー大会は現在第 44 回、全国中学校男子バスケットボール大会も現在第 43 回のため、過去 40 年間を集計した。

※バスケットボールの場合､第 1～3 回大会は､月間バスケットボールの出版されておらず､日本中学校体育連盟の資料にも記載がなかったために第 4 回大会から集計した。

3. 結果

3.1　都道府県別の入賞ポイント

		サッカー	バスケットボール
東北	北海道	4	10
	青森県	14	6
	岩手県	5	0
	宮城県	5	3
	秋田県	4	19
	山形県	2	8
	福島県	5	8
関東	茨城県	46	18
	栃木県	21	7
	群馬県	11	10
	埼玉県	69	34
	千葉県	19	13
	東京都	17	67
	神奈川県	40	10
中部	新潟県	4	42
	富山県	4	6
	石川県	9	24
	福井県	4	1
	山梨県	7	0
	長野県	1	0
	岐阜県	9	8
	静岡県	97	22
	愛知県	23	21
	三重県	3	7

		サッカー	バスケットボール
近畿	滋賀県	6	10
	京都府	11	20
	大阪府	21	30
	兵庫県	12	10
	奈良県	2	0
	和歌山県	9	0
中国	鳥取県	2	0
	島根県	0	11
	岡山県	3	2
	広島県	7	4
	山口県	12	20
四国	徳島県	9	6
	香川県	3	4
	愛媛県	6	5
	高知県	0	1
九州	福岡県	12	33
	佐賀県	3	0
	長崎県	31	8
	熊本県	30	1
	大分県	7	0
	宮崎県	14	2
	鹿児島県	17	9
	沖縄県	5	34

3.2　地域別の平均値

	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	平均
サッカー	4.9	31.8	13	15	4.8	4.5	10.6	12
バスケットボール	10.5	24.5	15.2	12	7.4	4.5	21.5	13.8

（地域区分の内訳は「3.1　都道府県別の入賞ポイント」参照のこと）

3.3　問題点

この結果から浮き彫りになった問題点として、サッカーとバスケットボールともに四国地方のポイント数や平均値が低いことが分かった。そこで、四国地方における子どもたちのスポーツの活性化に向けた解決策を考える。

4.　＜政策提言 1＞四国地方の４県で協定を組む

①四国 4 県のサッカー協会で協定を組む

②四国地方の 4 県で試合や練習会のために遠征する場合は、その協定が経費の負担をすること。経費の内訳としては、高速代の交通費のみ。また、台数に上限はない。

③中国地方と近畿地方に試合や練習会のために遠征する場合は、その協定が経費の負担をすること。経費の内訳としては、高速代の交通費のみ。バス会社からバスを借りる場合は、上限 5 万円まで負担。理由としては、大型バスの目安としては 6 万～11 万。目的地によって貸切料金が異なるので、それによって負担金を決める。

④以上の 3 地方以外（九州地方、中部地方、関東地方、東北地方）に遠征する場合は、その協定が、経費の負担をすること。経費の内訳としては、上限 7 万円まで負担。理由は②と同様

＜政策提言２＞四国総合運動場を建設

場所は空港があり、本州と四国を結ぶ瀬戸大橋のある香川県。この施設はサッカーにおいて、国際試合規格のフィールド３面、またジュニア規格であれば６面分のフィールド面積、夜間照明が完備されているのでナイターも可能。バスケットボールにおいては、最大１万人収容で 4 面を同時に使用できるアリーナがある。どちらの競技も、大きな大会や練習会に適している。また、1000 人が宿泊可能な施設も完備されている。

静岡県のエコパを参考にし、四国地方のサッカーを活性化・レベルアップの為にも、四国にこのような総合運動施設を建設する。

このような、整った施設を建設・運営し、他県との交流を行えるようになれば、四国県

内だけではなく、全国のトップレベルのチームと試合もでき、大きな影響を与えるのではないかと考えた。

＜政策提言３＞プロチームと地域社会との関係性強化
Ｊリーグ百年構想の中でＪリーグが提唱しているように、プロチームと地域社会の関わりはとても重要なものである。これは、バスケットボールにも共通していることだ。
①定期的に研究発表会を開き、最新のノウハウを地域の指導者に提供
②スクール・体験教室の開催地域を増やす
③クラブ名がついているアミューズメント施設

5.まとめ
　現在の日本において、子どものスポーツ離れが問題となっている。そこで私たちは地域格差のない日本全体のスポーツ復興に向け、スポーツが低迷している地域（四国地方）に対して、「四国地方の４県で協定を組む」、「四国総合運動場を建設」、「プロチームと地域社会との関係性強化」をすべきだと提案した。もし実現する事ができれば、四国地方のレベルアップとなり、日本全体のスポーツ活性化につながることが期待できる。

＜資料・文献＞
・公益財団法人日本レクリエーション協会運営　子どもの体力向上HP
　http://www.recreation.or.jp/kodomo/index.html
・ニュースソース 日本経済新聞　プラスワン 2012/12/4 6:30
・エコパ公式ウェブサイト
　http://www.ecopa.jp/
・Ｊリーグ　百年構想
　http://www.j-league.or.jp/100year/about/
・笹川スポーツ財団「スポーツライフデータ 2010 スポーツライフに関する調査報告書」